



## 長崎っ子の心を見つめる

### 教育週間



先日は授業参観と学年育友会に御出席くださいましてありがとうございます。また、近年は高校のオープンスクールなども、早めに行われていきますので、保護者の方々にとっては日程調整が難しいのではないかとお察しします。子ども達にとっても、体育大会を終えて息つく間もなく中総体やクラブの大会、定期テスト、生徒会活動など、盛りだくさんに活動に取り組んで怒涛の日々が続いています。そんな中ではありますが、そんな中だからこそ、子どもの心を見つめていただき、必要な声、必要な手立てを、機会を逃さず差し伸べてくださればと思います。「目の前にいる子どもの中に起きている変化を見逃さない」ということが、以下三つの事件を防げなかった私たちの教訓（誓い）です。

平成十五年七月一日

（長崎市、幼児殺害事件「中学生」）

平成十六年六月一日

（佐世保市、同級生殺害事件「小学生」）

平成二十六年七月二十三日

（佐世保市、同級生殺害事件「高校生」）

## 高校のオープンスクールに

### 「参加する」ということ

本年度のオープンスクールや説明会に参加して共通に感じたのは次のことです。

#### 生徒の主体性を伸ばそうとされている

生徒を前面に出して司会や説明を任せたり（〇高、K高）、朝補習を完全廃止して一日のスケジュールに余裕を持たせたりする（S高）など、生徒の主体性に期待する様子が伝わってきました。そしてどの学校も「出口（進学や就職）」の充実について力を込めて話されていました。入学前に卒業後のイメージを描くことができるか（できないかは、進路選択において重要なことです。それを高校の先生や生徒達に直接聞けるオープンスクールへの参加はとても重要だと改めて感じました。本校は「高校での学び」につなぐ研究の指定を受けて取り組み始めたところですが、この研究も「生徒の自主性・主体性」を伸ばすことが目標の一つです。ですので、オープンスクールへの参加を強く勧めたいと思います。

#### 三年生諸君、最低三つの

##### オープンスクール

##### （または説明会）に

##### 参加しよう！



※一・二年生の参加も受け入れられている学校が増えています。希望者は連絡をください。

《コラム 港町ブルース》

## 陰徳を積む

自分に得になるかどうかは考えず、人知れず人々（世の中）の幸せを願って行う行為を「陰徳」といいます。募金やボランティアだけでなく、スリッパを並べることも落ちているごみを拾うことも、願いを持つ人にとっては陰徳です。世の中の弱い立場に立っている人を支えたい、力になりたい、いざというときに「あなたがいてくれて良かった」と言ってもらえる人になりたいと願う者にとっては、体を鍛えることも、勉強することもまた、陰徳です。

「長崎っ子の心を見つめる」この季節には、そんな視点で自分を見つめることも価値あることかな…と思つて綴りました。



## 《 主な行事予定 》

### 《7月》

- 12日（水）学習コンテスト（漢字、全員）
- 20日（木）終業式
- 22日（土）県中総体 ～24日
- 26日（水）保護者面談（1・2年生）  
三者面談（3年生）～8月1日

### 《8月》

- 9日（水）県民祈りの日、平和集会  
登校日（給食なし）
- 10日（木）学校閉庁日 ～15日
- 21日（月）課題実力テスト（全学年）  
（給食なし）～22日
- 23日（水）3年生授業日（給食なし）  
～24日  
漢字検定（希望者のみ）
- 26日（土）数学検定（希望者のみ）

《心に響いた言葉》 「『勉強しなさい』と言わないとしないんです。」ある保護者の言葉からお気持ちは分かります。言う「分かつつさ！」とはぶてる（怒る）様子も想像できます。中学生諸君、がんばろう！



シリーズ「教育を取り巻く社会の動向」

〈第三回〉  
長崎県教育振興基本計画から

### 急速な技術革新

先日、第一線の業務を行われている二人のお話を



お聞きすることができました。そのうちのお一人、田中久美氏（シャバネットホールディングス人事部採用教育戦略部セナールマネージャー）は、「どのような人材が欲しいですか？」という私の質問に次のように答えられました。

#### 「変化に対応する人、前向きにチャレンジする人」

お話の中では「VUCAの時代です」とも。VUCAは「変動、不確定、複雑、曖昧」を意味します。企業の最前線で戦う田中氏であっても「何が起きるか分からない」というのがこれからの未来だと言われていました。考えてみればスマホの登場の前と後では生活は一変しました。ユーザーという職業が生まれ、戦争当事国の大統領のつばやきを誰もが聞いて、ドローンや自動運転が実用化されれば、もっと大きな変化が起きる…と思いきや「Chat GPT」が登場して仕事（長けた少年にとっては夏休みの宿題）が激変する。そのような世の中だからこそ「自ら主体的に多様な人々と協働しながら新たな価値を創造できる人材の育成が求められます」と長崎県教育振興基本計画には記されています。

〈そこで、中学校（本校）では〉

先日、文部科学省から「ChatGPT」のガイドラインが示されたという報道があり、有効な使い方と不適切な使い方示されていました。本校でも指導を行う予定ですが、その方針は、歴史に学んで進めていきたいと考えています。約二百年前、当時の世の中をひっくり返す新しい技術（手作業→機械）が導入された時に起きた「ラッタイト運動（機械打ち壊し運動）」では、その目的が二つあったと記されています。

- ・失業への不安の解消
- ・新しい秩序の構築

これを中学生に当てはめると、考えていた「将来の職業」がなくなる不安、読書感想文をChatGPTに書かせる生徒の出現、ということでしょうか。このような中でどのようにこの「急速な技術革新」に向き合うかが問われています。つまるところ、新しい技術の活用を模索しつつ「人間にしかできないことをしっかりと磨く」ということになると考えています。

さて、お話を聞いたもう一人は、南島原市の出身で現在、浜松建設の住宅事業部にお勤めの川島貴弥さんでした。お客様の満足度を上げるためにIT機器を活用していると説明された川島さんが欲しい人材は、こんな人でした。

「相手を自分のことのように尊重できる人」

「今、有家中の校長先生をされている若永先生が、中学時代の私の恩師です。」と話されたその笑顔に人間味があつてとても素敵でした。

ふるさとの文化・歴史・人物——口之津中教育の視点から

### 「白浜海水浴場」

その昔、水着姿の海水浴客を横目に、肩車でダッシュをしてきた私の思い出はさておき、白浜海水浴場に青春の思い出がある人は少なからずいらっしゃるのではないのでしょうか。そうでなくともこの砂浜は、奇跡の創造物であるとの記事を見つけました。

砂浜が作られるには、砂を供給する川と海流、そしてその流れがよどむような地形が兼ね備わっている必要があります。（中略）島原半島で海水浴ができる美しい砂浜はいくつかの自然条件が重なり合ってきたシオの産物なのです。（島原半島シオパーク協議会）

先日、小学生や口之津海上技術学校の生徒、そして、地域の方々といっしょに清掃をした本校にとっては「ふるさと教育」の場でもあり、いろいろな価値や意義がある場所になっています。そして何よりも美しい。この何気ない価値を心の奥底で実感させていきたいと思えます。



#### 【お知らせ】大雨への備えについて

最近、大雨の被害が多く発生しています。長崎大水害が起きたのは、一九八二年七月二十三日から二十五日にかけてでした。大雨の可能性がもうしばらく続きます。命を守る行動がいつでも取れるよう、御留意ください。